

## わが党の名称はどのようなものであるべきか？

科学的にただしく、政治的にはプロレタリアートの意識を明晰にするのをたすけるようなわが党の名称はどのようなものであるべきか？

十九 最後の問題、わが党の名称の問題にうつろう。われわれは、マルクスとエンゲルスが名のつたように、**共産党**と名のらなければならない。

われわれは、自分がマルクス主義者であり、社会民主党によってつぎの二つの主要な点でゆがめられ、裏切られた『共産党宣言』を基礎とすると、くりかえして言わなければならない。すなわち、(一) 労働者は祖国をもたない、帝国主義戦争における「祖国擁護」は社会主義にたいする裏切りであるという点、(二) マルクス主義の国家学説が第二インタナショナルによってゆがめられたという点。

マルクスがなんども指摘し、とりわけ 1875 年の『ゴータ綱領批判』〔第 12 巻、224~225 ページ〕のなかで指摘したように、またエンゲルスが 1894 年にもっとわかりやすく述べたように〔第 13 巻、71~75 ページ〕、「社会民主主義」という名称は**科学的に**不正確である。人類が資本主義から直接にうつることのできるのは、社会主義、すなわち、生産手段の共同所有と各人の労働に応じた生産物の分配にすぎない。わが党はもっと先のほうを見ている。すなわち、社会主義は、かならず、「各人は能力に応じて、各人には欲望に応じて」とその旗に書きしるした共産主義へ、しだいに成長転化していかざるをえない。

これが私の第一の論拠である。

第二。わが党の名称（社会民主主義者）の後半も科学的に正しくない。民主主義は**国家**の一形態である。ところが、われわれマルクス主義者は、**あらゆる**国家の反対者である。

第二インタナショナル（1889 ~ 1914 年）の指導者であるプレハーノフやカウツキーやその同類は、マルクス主義を卑俗化し、ゆがめてしまった。

マルクス主義が無政府主義とちがうのは、社会主義へうつるのに**国家が必要であること**、だが、（この点でカウツキー一派との違いがあるのだが）普通の議会主義的ブルジョア民主主義共和国のような国家ではなくて、1871 年のパリ・コンミューンのような、1905 年と 1917 年の労働者代表ソヴェトのような国家が必要であることを、みとめる点にある。

私の第三の論拠。生活は、革命は、**すでに実際に**わが国に、弱い、萌芽的な形態でこそあれ、まさにこの新しい、本来の意味での国家ではない「国家」をつくりだした。

これは、指導者の理論にはとどまらないで、**すでに大衆の実践の問題**になっている。

本来の意味での国家とは、人民から分離した、武装した人間の部隊が大衆を指揮することである。

**生まれようとしている**われわれの新しい国家もやはり国家である。なぜなら、われわれにも、武装した人間の部隊が必要であるし、**きわめて厳格な**秩序が必要であるし、帝制派反革命およびグチコフ的ブルジョア的**反革命のあらゆる**企てを暴力で**容赦なく**弾圧することが必要であるからである。

だが、**生まれようとしている**われわれの新しい国家は、もはや、本来の意味での国家ではない。なぜなら、ロシアの多くの地点で、この武装した人間の部隊をなしているのは、

大衆自身、人民全体であって、人民の上に立ち、人民から分離した、特権的な、実際にかえることのできない人々ではないからである。

うしろのほう、すなわち、古い**君主制的統治機関**——警察、軍隊、官僚——によってブルジョアジーの支配を強化した普通のブルジョア型の民主主義のほうをではなくて、まえのほうを見なければならぬ。

生まれようとしている、すでに民主主義でなくなろうとしている新しい民主主義のほうを見なければならぬ。〔すでに民主主義でなくなろうとしている〕というのは、民主主義とは人民の支配のことであるが、武装した人民自身が自分を支配することはできないからである。

民主主義という言葉が共産党に適用するのは、科学的に正しくないだけではない。1917年3月を経た今日では、この言葉は、革命的人民の目をふさぎ、彼らが新しいもの——すなわち、「国家」内の**唯一の権力**であり、**いっさいの国家の「死滅」**の先触れである労働者・農民その他いっさいの代表ソヴェトを、自由に、大胆に、自分の裁量で建設するのを妨げる目かくしとなっている。

私の第四の論拠。社会主義の世界的な客観情勢を考慮しなければならない。

この情勢は、マルクスとエンゲルスが不正確で日和見主義的な用語——「社会民主主義」——を意識して大目に見ていた1871～1914年における情勢とは、ちがっている。なぜなら、パリ・コンミュンの敗北後の**当時**には、歴史は、ゆっくりした組織的＝啓蒙的活動を日程にのぼせていたからである。それ以外の活動はなかった。無政府主義者は、理論的にだけでなく、経済的にも、政治的にも、根本的にまちがっていた（また、いまでもまちがっている）。無政府主義者は、世界情勢——帝国主義的利潤によって墮落させられたイギリスの労働者、撃破されたパリのコンミュン、勝利したばかりの（1871年に）ドイツのブルジョア民族運動、ながい眠りにおちている半農奴制的なロシア——を理解せず、情勢をまちがって評価した。

マルクスとエンゲルスは、情勢をただしく考慮し、国際情勢を理解し、社会革命の開始にむかって**ゆっくりと**近づく任務を理解した。

われわれも、新しい時代の任務と特質を理解しよう。「私は竜（の歯を）を蒔いて、のみをとりいれた」とマルクスに言われた、へぼマルクス主義者たちのまねをしないようにしよう。 ※ギリシア神話でカドモスが蒔いた竜の歯からは、武装した男が現れた。

帝国主義に成長転化した資本主義の客観的必然性は、帝国主義戦争を生みだした。戦争は**深淵のふちに**、全文化の破滅、さらに幾百万の人々、幾百万ともしれない人々の野蛮化と破滅の**瀬戸際に**、全人類を追いつめた。

プロレタリアートの革命をおいてほかに活路はない。

ところが、この革命がはじまろうとしているそのときに、革命がおずおずした、おぼつかない、無意識的な、ブルジョアジーを信じすぎる第一歩を踏みだそうとしているそのときに、大多数の（これはほんとうのことだ、事実だ）「社会民主党」指導者、「社会民主党」議員、「社会民主主義」新聞——ところで、これらこそ大衆に働きかける**機関**なのだ——が、社会主義を裏切り、社会主義を**売りわたし**、「自」国のブルジョアジーの**がわに寝がえってしまったのだ**。

大衆は、**これらの**指導者によって混乱させられ、まよわされ、だまされている。

もしわれわれが、第二インタナショナルがくさったように、これまたくさってしまった、古い時代おくれの名称に執着するなら、われわれはこの欺瞞をはげまし、容易にすることになろう！

社会民主主義という言葉をまじめに理解している労働者も「多数」にいるというなら、そうとしておこう。それにしても主観的なものと客観的なものとを区別することをまなんでよいことである。

主観的には、これらの社会民主主義的労働者は、プロレタリア大衆のもっとも忠実な指導者である。

だが、客観的な世界情勢のおかげで、わが党の古い名称は、大衆にたいする欺瞞を容易にし、前進運動を阻止するものになってしまった。なぜなら、いたるところで、どの新聞紙上でも、どの議員団でも、大衆の目にうつるのは指導者——すなわち、その言うことはほかのものの言うことよりも大きく聞え、そのすることはほかのもののすることよりも遠くから見える人々——の姿であるが、この指導者はすべて「でも社会民主主義者」であり、すべて、社会主義の裏切者との、社会排外主義者との「統一に賛成」しており、すべて「社会民主党」のふりだした古い手形を提示しているからである。……

ところで、私に反対する論拠は？……「無政府共産主義者と混同される」というのだ。……

では、社会国家主義者や社会自由主義者と混同されるのを、大衆にたいするブルジョアの欺瞞にかけてはだれよりもすすんでいてだれよりも老獪なフランス共和国のブルジョア政党、急進社会党と混同されるのを、どうしておそれないのか？……「大衆はこの名称に慣れている、労働者は自分らの社会民主党に『愛着している』』という。……

これが唯一の論拠である。だが、これは、マルクス主義の科学も、革命のあすの任務も、世界社会主義の客観的情勢も、第二インタナショナルの恥ずべき崩壊も、プロレタリアをとりかこんでいる「でも社会民主主義者」の群が実践的事業を破壊しているのも、無視する論拠ではないか。

これは、旧慣固守の論拠、休眠の論拠、沈滞の論拠である。

だが、われわれは世界を改造しようとのぞんでいるのだ。われわれは、幾億という人間を引きこみ、幾千億幾兆という資本の利益がからみついている帝国主義的世界戦争をおわらせようとのぞんでいる。そして、人類史上最大のプロレタリア革命によらずには、真の民主主義的講和でこの戦争をおわらせることはできないのである。

それなのに、われわれは自分をおそれている。われわれは、「着なれた」、「なつかしい」、よごれたシャツに執着している。……

よごれたシャツはもうぬぎすてるべきときだ。きれいな下着を着るべきときだ。

ペトログラード、1917年4月10日 ※ 本文中の……は原文のまま

第24巻 P69~73 『わが国の革命におけるプロレタリアートの任務』  
〈民主主義についての私の考え〉 “by the people” を合言葉に!! (4-24参照)

ブルジョアジーが、資本主義をすりかえて民主主義という言葉を使って人民を支配してきたことは事実であり、支配するための言葉であったことは確かである。しかし、民主主義とは人民主権の意味を持って当初生まれたものであり、その本来の意味での復権が必要であり、国民の意識の中には人民主権として理解されている。